

晴山会 topics

VOL.59

「大規模災害に備えて～病院・施設の役割～」を テーマに勉強会を開催!!

平成28年1月26日(火) 地域ふれあい広場「はなしま」



1月26日午後6時30分から8時まで、地域介護公開研究会(参加者70名)が社会福祉法人晴山会の地域ふれあい広場「はなしま」で開催された。

今回は平山病院の顧問で、阪神淡路大震災発生時に国としての医療チーム派遣(自衛隊中央病院)で陣頭指揮を取られるなど災害医療のエキスパートである白濱龍興氏を講師として、「大規模災害に備えて～病院・施設の役割～」をテーマにした勉強会であった。

講演は、まず講師が自衛隊中央病院に在籍していたときの災害医療チーム派遣などの経験談を話され、「日本は災害、特に自然災害の宝庫であり、私たちは、そのような土地に住んでいるに過ぎない」と、私たちは発生する災害から免れることはできないので、地震、大規模火災、大規模交通災害、テロなどの大規模災害が発生したら、医療支援活動はまず人命救助活動で外科的疾患に対応し、続いて生活支援で内科的疾患に対応し、その後応急復旧で内科的疾患・リハビリ・PTSD(心的外傷後ストレス障害)に対応していくことになることを説明された。そして、施設・病院が被災した場合と、そうでない場合の役割を説明され、災害に備えることとして、あらゆる場合を想定した防災訓練の実施や一人3日分(72時間)の備蓄が必要であることを述べられた。

また、晴山会グループの施設は、災害発生時には、高齢者・障害者・妊婦など、一般の避難所では生活の支障があり、特別な配慮を必要とする人を受け入れる福祉避難所としての役割が期待されているのではないかと述べられた。

今回の講演は、災害のことを考えさせられる有意義な勉強会であった。

— 第55回地域介護公開研究会について —

次回の開催については、内容等が決まり次第お知らせします。